

28PA-am371S

薬局での早期臨床体験における見聞・体験の内容調査

○住山 昌英¹, 串畑 太郎¹, 安原 智久¹, 栗尾 和佐子¹, 曾根 知通¹ (¹摂南大薬)

【目的】早期臨床体験は、低学年次から臨床現場での見聞・体験を通して、薬剤師を取り巻く現状を把握し、薬剤師の職能に対する理解を深め、今後の学修意義を認識すると共に、学修意欲の向上においても重要である。しかし、施設によって実施内容は様々であり、学生が見聞・体験してきた内容に差がある。今回、薬局での早期臨床体験における見聞・体験の内容を明らかにする試みを行った。

【方法】2017年度1年次生249名は、薬局(31施設・65グループ)で早期臨床体験を行った。訪問後、グループごとに薬局で見聞・体験した内容について26項目の聞き取り調査を行った。調査結果を用いて階層型クラスター分析(Ward法)を行い、5群に分類した。各群の見聞・体験を用いて分割表を作成し、セルのカイ二乗値から特徴的な見聞・体験を抽出した。

【結果・考察】各群の特徴的な見聞・体験は、A群(n=20):OTCの模擬販売を体験した(19.9)、来局者の姿を見た(8.2)、模擬の服薬指導を体験した(6.9)、B群(n=13):水剤の調剤体験をした(12.0)、散剤の調剤体験をした(10.5)、お薬手帳を用いて業務をする薬剤師を見た(7.6)、C群(n=17):災害医療について説明を聞いた(8.6)、軟膏剤を調剤する薬剤師を見た(4.6)、錠剤・カプセル剤の調剤体験をした(4.5)、D群(n=13):医療用麻薬を見た(29.7)、医療職以外の職員と話をした(6.8)、注射剤を見た(3.8)、E群(n=2):検査値を用いて業務をする薬剤師を見た(50.6)、医療施設との連携にかかわる業務をする薬剤師を見た(32.5)、処方提案を行う薬剤師を見た(25.3)であった(セルのカイ二乗値)。これら各群の特徴的な見聞・体験を生かし、その内容を相互に補完できるような方略を構築することで、早期臨床体験の質を向上できると考える。